Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-06

養鷗徹定編『羅漢図讃集』の資料性

上嶋，悟史

(Citation)
美術史論集,22:125-141

(Issue Date)
2022-02-16

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/0100486250

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100486250

研究ノート

養鸕徹定編『羅漢図讃集』の資料性

《キーワード》貫休　李公麟　浄土宗　知恩院　増上寺　乾隆帝　嘉興蔵

上嶋悟史

はじめに

養鸕徹定（瑞蓮社順誉金剛宝阿、一八一四―九一、図1）[1]は、幕末から明治期にかけ、福田行誡（一八〇九―八八）とともに浄土宗を牽引した傑僧として知られている。それだけでなく、徹定は学僧としても類まれな成果を築いた。古経堂と号した徹定の学問上の特長は、古経や古画に対する徹底的な資料の博捜と緻密かつ批判的な考証にあると言えよう。幕末期、すなわち徹定の壮年期に編纂された『古経捜索録』二巻（嘉永五＝一八五二年）、『古経題跋』二巻（文久三＝一八六三年）などは渉猟に賭した熱意と批判的視座に富んでいる。

図1　養鸕徹定
明治十三年（1880）　六十七歳
当時　大教正／浄土宗西部管長

『羅漢図讃集』三巻は中国およびわが国の、羅漢図に対して著された讃、題、跋、記などを集成した版本である。その収載内容は広範に及んでおり、現在においても最も充実した羅漢図研究書であると言える。

筆者は高台寺所蔵「十六羅漢図」（重要文化財）に関する先稿において、『羅漢図讃集』に現れた徹定の思想や、徹定が制作に関わった大角南耕筆「十六羅漢図像」（米国・ウォルターズ美術館所蔵）と『羅漢図讃集』との関わりについて論じた。[2]ただしそこで筆者は東京文化財研究所所蔵本『羅漢図讃集』を半ば無批判に用いており、それがいかなる性質をもつ書物であるのかという点についての分析には周到さを欠いていた。

『羅漢図讃集』は、先学においてもつねに注目すべき著作として扱われてきた。しかし実に繁多で多岐にわたるがゆえに、その内容の精査はなされてこなかった。そこで本稿において、筆者が目睹し得たいくつかの版本および写本に基づいて、今一度刊行経緯およびその内容を整理したい。本稿が『羅漢図讃集』の便覧として、今後の自他の羅漢図研究に裨益すれば幸いである。

なお、本文に続けて版本および写本に収録された記事を【表】にまとめた。本文中、記事について触れる際には【表】に示した①通し番号を併記した。

A、先行研究

『羅漢図讃集』の専論は管見の限り存在しないものの、徹定研究においては従来特筆すべき業績として捉えられている。しかしその公刊年については、混乱をきたしている。

徹定の年譜は、幾度か編まれている。まず『仏教文化研究』十四号（一九六八年）において牧田諦亮氏が「徹定上人年譜稿」を編んだが、そこで文久二年（一八六二）条に「是年、羅漢図讃集三巻ヲ著ハシ、八月知恩院ヨリ刊行ス」と記している。その後、牧田氏は『古経捜索録』（藤原弘道、一九七二年）別冊に増訂版の年譜を寄せており、同様に記述する。また牧田氏の年譜稿を承けて『古経堂詩文鈔』別冊（徹定上人遺文集刊行会、一九七七年）、『佛教文化研究』第三六号（養鷗徹定上人特集、一九九一年）の二度、改訂版の年譜稿を発表した木本弘昭氏も文久二年八月刊を踏襲している。

反面、牧田氏は『詩文鈔』別冊所収「徹定上人」で、文久四年に「推敲をかさねて、ようやく公刊された」とする。一方で小島章見氏は『佛教文化研究』第三六号所収「徹定上人の著作論考—特に嘉永年代を中心とする壮年期の著作について—」において、文久四年の公刊であるとする。

さらに『佛教大学図書館蔵貴重書図録』（一九九七年）では牧田氏旧蔵という佛教大学図書館所蔵の写本『十六羅漢圖贊集』の解説に「文久二年版本、文久三年版本、文久四年版本、さらには昭和初年版本などがある」と記される。[3] これについて牧田氏は『佛教文化研究』第三六号所収「徹定上人の生涯」において「昭和十年ごろまでに、知恩院蔵の版木を用いて京都其中堂書店から彩色版が発行された」という。

このような公刊年の混乱は、『羅漢図讃集』の重層的な編纂過程に由来すると思われる。すなわち『羅漢図讃集』天巻の扉には「文久壬戌仲秋新鐫／羅漢圖讃集」と記され、文久二年の5徹定自序もあるため、一見では文久二年刊のように思われる。しかし人巻末には法恩学恩ある先輩僧の名を列挙した文久三年の195徹定自跋、および「縁山教頭密順」による文久四年の194跋文があるため、刊行年は文久四年とすべきである。[4] 筆者がこれまで確認した『羅漢図讃集』には全て文久四年跋があり、文久二年あるいは三年に刊行された可能性は見出せていない。[5] なお、昭和版については確認できなかった。

B、刊行経緯

Aで述べたように、『羅漢図讃集』は文久二年（一八六二）に一度成り、自序がしたためられたのち、同四年に刊行にいたったと考えられる。しかし実際のところ、嘉永三年（一八五〇）には多くの部分が完成していた。

『羅漢図讃集』の前身となったと考えられるのが『十六羅漢図賛輯録』である。『詩文鈔』別冊において牧田氏は、徹定が『十六羅漢図賛輯録』を嘉永三年に纂集したことを述べ、そこに文献を増補し、十五年間の推敲をかさねて公刊したのが『羅漢図讃集』であるという。のちに『仏教文化研究』第三六号において牧田氏は「京都仏教大学図書館に、徹定手沢親筆の極彩色の原本が収められ」たと述べているが、牧田氏旧蔵の『十六羅漢圖贊集』一巻（表⑥佛大写本）がおそらくこれに宛てられる。また早稲田大学図書館には『十六羅漢圖贊輯録』中下二巻（表⑦早大写本）が収蔵される。早大写本はうち中巻の巻頭に「十六羅漢図賛輯録後編序」と、下巻の巻頭に「附録」とあり、また佛大写本との間に項目の重複がない。

一方『仏教文化研究』第三六号において小島氏は、自身の所蔵になる別本の「十六羅漢図賛輯録」乾坤二巻の写本を紹介している。それは冠誉慧厳（増上寺六十六世、一一八六〇）へ徹定が呈した本を、「鑑誉上人」が謄写したものであるという。またその乾巻には、冠誉による嘉永四年の「十六羅漢図賛輯録序」があり、『詩文鈔』所録の「十六羅漢図賛輯録序代入」に一致するという。

ところで現在、国立国会図書館には『十六羅漢圖贊輯録』乾坤二巻が所蔵される（表⑤国会写本）。その内容は佛大写本＋早大写本とほぼ等しい。乾巻の巻頭にはともに嘉永三年の6冠誉序（本文と同じ筆跡）および7徹定自序があり、各巻の見返しおよび書き出しには朱文方印「徹定圖書之記」が捺される。乾巻巻頭の6冠誉序および7自序、巻末の191聖因寺蔵幅題名および196自跋は佛大写本にはないが、本来は存在したものが落丁したと推測できる。佛大写本冒頭の「旨／嘉永庚戌夏五／緣山南谿　杜多徹定謹」（以下汚損）が、国会写本乾巻の7自序の署名「旨／嘉永庚戌夏五／緣山南谿　杜多徹定謹撰」と一致するためである。

では佛大写本、早大写本、国会写本、版本『羅漢図讃集』はどのような関係にあるだろうか。例えば、佛大写本の8「附言七則」中には「釋面山」「掛絡子」「拜瞻絡觀」といった文字の訂正が散見される。これらの文字は国会写本では訂正前であり、版本では訂正されている。このように、佛大写本における校正が国会写本では元の姿をとどめており、版本では訂正されているといった箇所は他にも多数指摘できる。前述した7徹定自序の署名も同様である。

次に、159面山瑞方「福田宜耕録記」に徹定が付した識語を見ると、版本には「定嘗觀常州若芝金龍寺所蔵羅漢像」とある。早大本ではこれに等しく、国会写本では「嘗」字が校正記号によって後から挿入されている。また版本には収録されなかった192「五百羅漢圖記輯録跋」においては、国会写本では「孔子有十哲五百門人」の「五百」が上から「七十」に書き直される、といった文字の修正が散見され

るが、早大写本ではそれが反映されている。このように、国会写本における校正が佛大写本や早大写本の時点ですでに反映されている部分も枚挙にいとまがない。以上のように、佛大写本と早大写本はともに、国会写本と版本の間における校正の過程を示すものと思われる。

なお現物を検していないため厳密性を欠くが、国会写本においては多くの箇所で貼紙による訂正がなされているようである。例えば28を見ると、版本では題・名ともに「仝前」とあるが、これは24「唐貫休畫十六羅漢賛　清乾隆皇帝」にかかるものと考えられる。後述するように24～27はとある拓本から採録されているため仝前として間違いはないが不自然である。実際には28の直前に24がくる写本の名残であろう。国会写本の28には「唐貫休十六羅漢讃／清乾隆帝」とあるが、その下に消された「乾隆皇帝又賛二通／十六羅漢讃」の字が見える。佛大写本では修正された「唐貫休十六羅漢讃／清乾隆帝」である。

以上を総合して按ずるに、嘉永四年にはじめて成立したのは国会写本『十六羅漢圖賛輯録』であり、次に増訂を加えつつ三巻本としたのが佛大写本、早大写本である。そして三巻本の写本に再度添削を施し、その修正を反映しつつ記事の増減を行って文久四年に版本が公刊されたと考えられる。

なお佛大写本には「里見」「河内國安福寺」印があり、知恩院末の玉手山安福寺（大阪府柏原市）旧蔵と考えられる[6]一方、早大写本には各巻末に「華頂山」印が捺されており、知恩院旧蔵の可能性をうかがわせる。内容上、佛大写本と早大写本は完全に分かたれており、国会写本から版本の間に同時あるいは段階的に筆写されたものと考えられる。ただし、佛大写本が当初の装幀や（「華頂山」印の捺された可能性のある）巻末の数頁を損なっているため、本来一具であったかは断定し難い。

版本にいたる校正の状況を確かに示すこれら三写本が徹定自筆である蓋然性は高いと筆者は考える。三写本ともに文字には基本的に徹定らしい癖が看取されるが、ばらつきも認められるため、弟子が写した部分もあるかもしれない。小島氏が鑑誉謄写本の存在を紹介しているように、複製本である可能性も無視すべきではなかろう。

C、編纂主旨

それぞれの写本、版本に採録された挿図から、編纂主旨を推測してみたい。国会写本では、挿図は24杭州孔廟石刻拓本の縮小模写（図2）のみである。これは、明末の傑僧として知られる紫柏真可（達観、一五四三―一六〇四）の旧蔵本と考えられる西湖孤山・聖因寺所蔵の絹本十六羅漢図[7]を、聖因寺住持の明水が資金を募って乾隆二十九年（一七六四）に模刻した十六角塔の拓本の模写である。[8]この石刻は現在も杭州孔廟内の文昌廟に安置されており、各羅漢図には乾隆帝の御製詩、慶友作・玄奘訳『大阿羅漢難提蜜多羅所説法住記』に基づく尊名、乾隆帝の校訂した阿哩噶哩字尊名[9]が刻される。さらに第四尊者面には25乾隆御識と26明水の題紀が、第十一尊者幅

には27貫休自讃が刻される（図3）。その図像は、第三、四、五尊者を除いて宮内庁三の丸尚蔵館本「十六羅漢図」、金沢称名寺本「十六羅漢図」（重要文化財）と酷似する。24について国会写本の7自序には「乾隆帝賞鑑する所の禅月大師画羅漢の墨本」とあり、「其の容貌相好実に常画の擬すべくに非」ざるために「欽仰の余自ら之を縮写」したものであるという。またその理由として「又た梵漢相合

図２　国会写本　24- 第十一尊者

図４　佛大写本　12- 第十一尊者

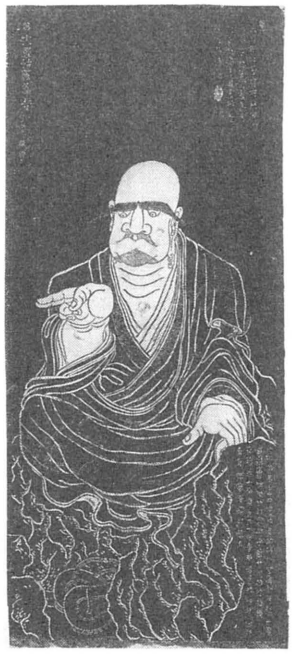

図３　杭州孔廟石刻拓本
第十一尊者
メトロポリタン美術館

して十八と称する者有り。皆古意を失す」「其の名位に至りては古今訳経の異同、新旧の舛訛有りて固に一定し難し」などと述べる。すなわち国会写本はとくに羅漢の数や名位について諸説の異同を明らかにするために纂集されたものであり、中でも杭州孔廟石刻拓本が図像とともに範とすべきものとして掲載されている。徹定自筆という模写図には対頁に『法住記』尊名、阿哩噶哩字尊名、乾隆御製詩とともに、拓本には存在しない、徹定による図像記述が付される。

佛大写本では、24石刻拓本の位置は後退し、代わりに12金沢称名寺本の彩色縮小模写（図4）が巻頭近くに収録されている。24の崩れた描写に比べ、[10] 12からは一定程度熟練した画技が看取される。これについて11「十六應真圖像考證」には「命畫工誠翁影寫之○以鳴其道風」とあり、誠翁なる職業画人の筆であることが分かる。さらに11において徹定は第三、四、五尊者が称名寺本と拓本とで異なる点に注目して、拓本のそれは後補であり、[11] 紫柏真可の讃の内容とより吻合する称名寺本を「真蹟」と見なした。すなわち、石刻拓本がもはや貫休羅漢の最善本でなくなったため、国会写本における24の役割が12へ移されたと思われる。

佛大写本では、24石刻拓本に付された徹定による図像記述に赤字で鉤括弧が書かれ、その上に「以下図与題一切刪去」と傍注される。その通り、版本では徹定による図像記述と拓本縮図は採用されなかった。一方の称名寺本縮図は多色刷りされた。11「十六羅漢圖像考證」には「命畫工誠翁影寫之、蔵于緣山文庫、又縮刻一本以鳴其道風」とある（波線部は佛大写本11の○部分に傍注された内容であ

る。ただし「縮寫」が「縮刻」に変わる)。

徹定にとって、羅漢は十六名であることが重要であり、さればこそ写本の段階では書名にも十六を冠していた。国会写本が「貫休の十六羅漢図についての本」として編纂されたであろうことは乾巻所収の記事がほとんどすべて貫休にまつわるものであることからも看取される。しかし公刊に当たっては羅漢図一般について扱うものと改め、『羅漢図讃集』と改題したのであろう。版本の5自序には29乾隆帝「十八羅漢賛」を引きながら、十八羅漢説への軟化した姿勢を垣間見せる。

D、複数の版

『羅漢図讃集』が文久四年(一八六四)刊であったことは前述したが、その中にも複数の版が存在しているようである。たとえば東文研本や京都府立京都学・歴彩館蔵本では天巻の扉に2「文久壬戌仲秋新鐫/羅漢圖讃集/總本山蔵板」とあり、その見返しに3「華頂山知恩院藏鐫」印が捺され、人巻末には196「淨土宗總本山/書籍調進所/知恩院古門前石橋町/澤田吉左衛門」の奥付がある。一方、東京藝術大学附属図書館蔵本、東京国立博物館蔵本、国立国会図書館蔵本などでは天巻の扉に1「文久壬戌仲秋新鐫/羅漢圖讃集/緣山蔵板」と、人巻の奥付には197「緣山蔵板」とある。[12]

「總本山蔵板」と「緣山蔵板」は、同じ版木であると思われる。天巻扉についても、「總本」と「緣」以外の部分は全く一致する。また12称名寺本羅漢図の縮図についてもやはり版木は同一ながら、著衣の彩色が異なり、とくに「總本山蔵板」では羅漢の口唇がきつい赤で彩色される。さらに「總本山蔵板」の諸本では、第十尊者に顕著なように版ズレが散見されるほか、毛描きの部分などがしばしば潰れている(図5、6)。

書肆の澤田吉左衛門はおよそ十八世紀前半から明治期まで浄土宗関連の書籍を中心に出版していたらしい。そのことは現存する版本の奥付から判明するが、こと『羅漢図讃集』と同じ版木を用いた奥付は文化十一年(一八一四)の『三祖要訓』や明治十六年(一八八三)の徹定撰『浄土三巻書』など広い年代の版本に見られる。

徹定は天保三年(一八三二)、十九歳にして増上寺に入った。『十六羅漢図賛輯録』を編纂していた嘉永三年(一八五〇)前後は増上寺新谷学寮司を務めていた。その後、文久元年に関東十八檀林の岩槻

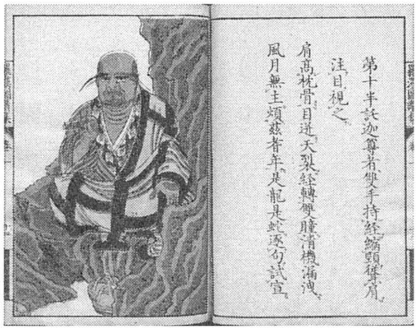

図5　東文研本(總本山蔵板)　12-第十一尊者

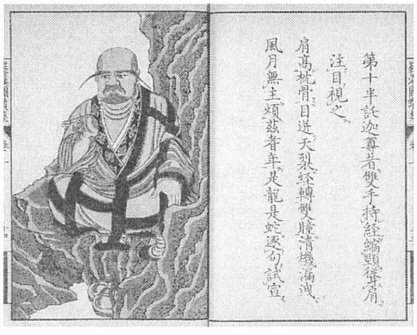

図6　藝大本(緣山蔵板)　12-第十一尊者

浄国寺に晋山した。すなわち『羅漢図讃集』公刊をめぐる文久二年から同四年、徹定はなおも関東を拠点としていた。明治期に入ると浅草誓願寺、小石川伝通院を歴任し、明治七年に知恩院住職となって以降はおおむね京都に居した。

「縁山蔵板」と「總本山蔵板」の前後関係は、現時点では断定できない。ただし以上の状況を勘案するに、文久四年に「縁山蔵板」が公刊されたのち、増上寺に収められていた版木が徹定とともに知恩院に移り、明治期に「總本山蔵板」が再刊されたのではなかろうか。[13]『羅漢図讃集』版木は現在、知恩院に収められている。[14]

なお「總本山蔵板」である東文研本を同じく京都府本と比較した際にも軽微な相違が見られた。天巻地巻には丁綴じ順の相違があるが、「縁山蔵板」との対応より東文研本に錯簡が生じていると見るべきである。[15]また東文研本地巻では明・王世貞「題十六應真後」および巻末をあらわす「大阿羅漢圖賛集巻二」が記された三丁が落ちている。東文研本は問題を抱えた版本であったことが判明した。

E、収録資料の概要

さて、ここまで『羅漢図讃集』公刊に至る経緯や各写本、版本の位置付けを見てきた。最後に、収録された記事について概観しておきたい。

先に見ておきたいのは、徹定が明治十年（一八七八）九月に知恩院へ寄付した文物を記した自筆の「新什物目録」である。これは華頂古記録第三十五冊に収められているといい、永井隆正「養鸕徹定上人「新什物目録」」（『浄土宗学研究』一九、一九九二年）に影印されている。本稿において注目される項目には「五百羅漢圖像　刻本　八帖／嘉慶三年戊午清和月常州府知府觀／瀾跋曰仿摹淨慈之法像」「十六羅漢圖像　刻本　十六幅／唐禅月大師畫清乾隆帝贊」「五百羅漢圖　絹本　一幅／宋法能禅師畫／禅師傳見佩文斎／書画譜」「十八羅漢画帖　金紙　一帖／明屠隆画并贊」「十六羅漢画帖　絹本　一帖／摸唐禅月大師畫金澤称名寺本」「十六羅漢画帖　絹本　一帖／摸間部松堂侯蔵本」などがある。

乾隆御讃のある刻本「十六羅漢図像」は24～27石刻拓本であろう。この拓本は現在でも広く流布しているものであるが、この目録より徹定自身も一件所持していたことが知れる。また、称名寺本を模した「十六羅漢画帖」はおそらくもと増上寺に収められたという「畫工誠翁」筆本であろう。ただしここでは「画帖」と記されてはいるが、佛大写本に当たる可能性も捨てきれない。

間部松堂（鯖江藩七代藩主・詮勝、一八〇四―八四）所蔵の「十六羅漢画帖」とは、筆者が前稿にて紹介した、松堂による嘉永四年（一八五一）の題をもつ大角南耕筆「十六羅漢図像」（米国・ウォルターズ美術館所蔵）であろう。ウォルターズ本は『羅漢図讃集』公刊前年である文久元年（一八六一）の徹定大跋によって「満谷」へ奉納されたことが判明するため、知恩院へ徹定が寄進した画帖は模本であると知れる。[16]

刻本「五百羅漢圖像」とは、清の嘉慶三年（一七九八）に出版さ

れた『石橋五百尊羅漢像』に当たるであろう。[17] その第五冊には劉權之「五百羅漢像賛」と「常州府知府觀瀾跋」が収録されており、148、149に当たる。版本において徹定は、自ら付した「杭州淨慈寺五百羅漢考」に入手の喜びを語るとともに購入を丁巳之夏（安政三＝一八五七年）のことと述べており、写本の成立下限を知る上でも貴重である。

このように、『羅漢図讃集』所収記事には、徹定所持本から採録されたものもある。例えば明・屠隆自画自讃の「十八羅漢画帖」は、103「十八應真賛」の典拠であった可能性が極めて高いように思われる。この賛もまた写本段階では未収録であるが、版本における位置から按ずるに、単独の尊者に著された93～102などは103同様、詩文集からの転載でなく徹定が入手あるいは目睹した羅漢図に記されていたものではなかろうか。

また版本に採用されなかった記事で、明らかに実作品から取材したものもある。例えば171の薫誉在禅による識・讃は、増上寺子院の妙定院に現存する月僊門人・谷口月窓（一七七四―一八六五）筆「十六羅漢図巻」に記されるそれと一致する。[18]

宋・法能筆「五百羅漢図」は、十四世紀末の朝鮮で描かれたと考えられるもので、知恩院に現存している。徹定は5自序に、この「五百羅漢図」を見て初めて「四威儀十禅行六波羅蜜の態」を知ることとなったと述べるように、重要視していたようである。近年では徹定の記述の通り、法能画に対して著された137秦観「五百羅漢圖記」と一致する図像をもつことや、大徳寺伝来「五百羅漢図」の図像と共通することが学術的な注目を集めている。[19] 徹定は、法能の伝記を「佩文斎書画譜」に見たという。確かに、康熙四十七年（一七〇八）に完成した『御定佩文斎書画譜』巻五二には法能伝が記されている。

このように、徹定が参照した文献も一部判明する。例えば8「附言七則」には、唐・闍那多迦訳『十六羅漢因果識見頌』、南宋・鄧椿著『画継』、北宋・蘇軾頌／明・王世貞讃『十八羅漢圖讃』（明版『三才図会』人物九巻に基づき、経師宗真が貞享四＝一六八七年抜き刷り）、明・張丑撰『清河書画舫』、面山瑞方著『羅漢応験伝』などに言及している。

中でも、11「十六應真圖像考證」に参照が明言されている「明紫柏大師文集」に注目したい。その羅漢図讃に基づいて称名寺本を貫休真蹟とみなすなど、徹定が紫柏真可に傾倒したことは前述した。ここでの「明紫柏大師文集」はおそらく、紫柏自身が中心となって万暦十七年（一五八九）に刊行が始まった大蔵経である『嘉興蔵』[20]の続蔵に収録される『紫柏老人集』を指す。実際、『羅漢図讃集』に引用される紫柏の著作は全て『紫柏老人集』に典拠がある。嘉興蔵はわが国において広く流布しており、増上寺酉蓮社にも一蔵伝来したことはよく知られている。[21] 酉蓮社本嘉興蔵は『紫柏老人集』全十五巻（＋巻之首）を完備しており、徹定がこれを参照した可能性は極めて高いように思われる。なお徹定は、少なくとも天保十三年（一八四二）には新谷学寮にあって、この酉蓮社に隣接した房子に居住していた。[22]

【表】中、⑪典拠の列には今回判明した範囲で所収記事の典拠を

記し、西蓮社本嘉興蔵に含まれる文献には［酉］を付した。[23] ただし多くは記事を収録する詩文集等を挙げたにすぎず、徹定の参照可能性などといった考証には必ずしも及んでいないことを断っておきたい。

おわりに

各写本・版本にまつわる枝葉の問題は尽きないが、すでに多くの紙幅を費やしてしまったため筆を擱きたい。

本稿において見たように『羅漢図讃集』の公刊にあたっては、徹定は実に広範にわたって記事を渉猟している。とくに『石橋五百尊羅漢像』など、徹定とさほど隔たらない清朝の動向に鋭敏な反応を示す点は注目される。

前稿において述べたように、5自序からは、徹定にとっての羅漢憧憬は中国でなく古インドに向いていたことが看取される。また、これほどまでに心血を注いで蒐集した「頌讃」も「諸羅漢の秘頤を探得する」ためのものであって、それが成就されれば捨ててしまえという。[24] 図像も頌讃も単なる筌蹄であって本質ではない。そうした思想、あるいはその根底をなす徹定の批判的考証意欲がどのように醸成されたかは未だ必ずしも詳らかでないが、現時点における筆者の仮説を述べておきたい。

一つ目は江戸時代の、とくに浄土宗において徹定以前に醸成されていた思想の継承である。徹定が写本に収録する薫誉在禅の170や171の題には、羅漢の名位が諸説で一定せず、また像容についても拠るべき経典が存在しないため中国やわが国の彫工画家がみだりに意匠を加えている、という徹定の前提となるような問題意識が呈されている。原理主義的な思想に基づいて中国を対象化し、古インドへの回帰を志す点はしかし、例えば真言律の慈雲飲光（一七一八―一八〇五）が悉曇（梵字）を学び、釈尊在世中の服制への回帰を唱えたことなどと通じるように思われる。宗派、年代ともに俯瞰的な視点からの考察が必要であろう。

二つ目は乾隆帝思想の受容である。『羅漢図讃集』において徹定は乾隆帝による羅漢名位の考証を重んじているが、女真である乾隆帝は伝統的な中国中心的な羅漢図観に批判的な視線を向けていた。それを端的に示すのが、玄奘訳『法住記』の尊名音訳に代わる、阿哩嚩哩字尊名を用いた尊名校訂である。チベット仏教ゲルグ派・チャンキャ三世の力を借りて古インドへのアプローチを試みた乾隆帝の著作を通して、徹定の三国観はおおいに圧縮されたのではないか。

以上の諸問題については、稿を改めて考えていきたい。『羅漢図讃集』は、近世から近代にかけて変容していく仏教美術史において汎アジア的視座が不可欠であることを示唆している。

［附記］

本研究には、二〇二〇年度橋本循記念財団研究助成の成果を含む。

註

(1) 徹定の肖像写真は後述する『古経堂詩文鈔』別冊より転載したが、同書によればこれは長野県松本市梓川・恭倹寺の所蔵で、裏面には自筆で「此真影本年二月承命進献宮内／省之副本也今贈一葉永充恭倹／寺之什物也／明治庚辰十一月大教正華頂山順譽」とある。その正本とみられる写真は、明治天皇が群臣らの姿を座右に置くために明治十二年（一八七九）に制作を下命した『明治十二年明治天皇御下命「人物写真帖」』全三九冊（宮内庁三の丸尚蔵館所蔵）中に収録されている。宮内庁三の丸尚蔵館『明治十二年明治天皇御下命「人物写真帖」―四五〇〇余名の肖像』（宮内庁、二〇一三年）。

(2) 拙稿「高台寺所蔵「十六羅漢図」の江戸時代後期における模本制作」（『日本近世美術研究』三、二〇二〇年）。

(3) 『佛教大学図書館蔵貴重書図録』の当該解説者は不明であるが、巻末の執筆者一覧には牧田氏の名がある。

(4) 『浄土宗全書』巻十八（浄土宗典刊行会、一九三一年）所収「松翁年譜」を見れば、「文久二年（一八六二）癸戌（ママ）…羅漢圖讃集三巻」とあるが、刊行したと明言されているわけではない。

(5) OPAC上などでは文久二年刊とされていても、実際には194文久四年跋が見落とされている場合もある。例えばOPAC上で「文久二年京都（智恩院藏版）」と表記され、新日本古典籍総合データベースでも「文久二版」とされる東北大学狩野文庫本が194文久四年跋をもつことを今回確認した。

(6) 高弟の心海が住職となった安福寺は、徹定と強い紐帯を有していた。例えば、徹定が弟子をして浄写せしめた『古経堂詩文鈔』二部（いずれも現在は佛教大学図書館所蔵）のうち一部は、佛大写本と同じ安福寺里見澄心の所蔵印をもつ。佛大写本も徹定の関与のもと安福寺にもたらされた可能性がある。

(7) 李玉珉「明末羅漢畫中的貫休傳統及其影響」（『故宮學術季刊』二三―一、台北、二〇〇四年）。

(8) 陳階晋「乾隆南巡と聖因寺貫休十六羅漢図」（『美術史論集』一三、二〇一三年）、邱士華「行篋隨行　由乾隆皇帝南巡時的書畫鑒藏談起」（『故宮學術季刊』三二―四、台北、二〇一五年）、張勉治・邱士華「行動宮廷在江南―乾隆南巡行營的作用」（『故宮文物月刊』四一〇、台北、二〇一七年）、陳階晋「乾隆南巡與〈貫休十六羅漢像〉的傳衍」（『故宮文物月刊』四〇九、台北、二〇一七年）、邱士華主編『行篋隨行―乾隆南巡行李箱中的書畫』（台北、国立故宮博物館、二〇一八年）。

(9) 阿哩噶哩字とは音訳に特化した複合漢字である。乾隆帝は十六羅漢の名を梵音に忠実に表すため、章嘉国師ことゲルク派のチャンキャ三世＝ロルペー・ドルジェ（Changkya Rölpé Dorjé：一七一七―八六）に勅撰させた『欽定同文韻統』に則り、阿哩噶哩字で新たに音訳した。28「十六羅漢賛」を参照。石濱裕美子『清朝とチベット仏教』（早稲田大学学術叢書二十、早稲田大学出版部、二〇一一年）、陳階晋「乾隆南巡と聖因寺貫休十六羅漢図」（前掲註8）。

(10) 24石刻拓本は国会写本、佛大写本いずれもたどたどしい筆致であるが、佛大写本では国会写本よりさらに簡略化、形式化の傾向が看取される。佛大写本が国会写本を介した重模である可能性が高い。

(11) 聖因寺本の第三、四、五尊者が紫柏の入手・著讃後に後人の手によって、当時流布していた他の十八羅漢図から補われたことは李玉珉「明末羅漢畫中的貫休傳統及其影響」（前掲註7）に指摘されている。

(12) 版本としては今回、東文研本（總）、東博本（縁）、国会本（縁）を現物調査し、京都府本（總）、藝大本（縁）、オーストラリア国立図書館本（縁）をデジタルデータで全覧した。

(13) なおこのほかローマ・サレジアン大学（伊）には順に2、10、色刷りなしの12、196のみを綴じた版本『羅漢圖讃集』が収蔵される。この版本に

おいて年紀を示すのは2扉の文久二年のみであるが、本文の議論より、「縁山蔵板」の文久四年を遡ることはないと推測される。立命館ＡＲＣ古典籍ポータルデータベース（https://www.dh-jac.net/db1/books/MMT0072/portal/ 令和三年一月三日最終閲覧）を参照。

(14) 『養鸞徹定上人とその著作　近代浄土宗の傑僧』（佛教大学宗教文化ミュージアム、二〇〇九年）。
また版木のうち三面は佛教大学に収蔵されているという。『ブッダのお弟子さん　教えをつなぐ物語』（龍谷大学龍谷ミュージアム、二〇二〇年）より岩田朋子氏解説（5－16）。

(15) 天巻の柱に注目すると、「縁山蔵板」順に4、5には「序」一～五、8は「凡例」一～三、9は「傳」四～五、10は「題」一、11は「証序」二～三と記され、12以下は四より連番となる。東文研本の綴じ順でも一～五、一～五、一～三の連番となることが、錯簡を許したのであろう。

(16) 拙稿「高台寺所蔵「十六羅漢図」の江戸時代後期における模本制作」（前掲註1）。なおこの時筆者は、11「十六羅漢圖像考證」の成立を嘉永三年としたが、今回の検証によりこれを降ることが判明した。

(17) 書名は国立国会図書館デジタルコレクションを参照。ただし国会本は全五冊である。

(18) 『画僧月僊』（名古屋市博物館、二〇一八年）。

(19) 知恩院所蔵「五百羅漢図」については主に以下を参照した。
井手誠之輔「大徳寺伝来五百羅漢図の成立背景（承前）」（奈良国立博物館・東京文化財研究所編『大徳寺伝来五百羅漢図』、二〇一四年）、井手誠之輔「作品誌の観点から見た大徳寺五百羅漢図の諸相」（九州大学Progress 100 人社系学際融合リサーチハブ形成型研究報告書、研究代表者井手誠之輔『徹底討論 大徳寺五百羅漢図の作品誌 ―地域社会からグローバル世界へ―』、九州大学大学院人文科学研究院、二〇一九年）、増記隆介「大徳寺五百羅漢図の母胎としての呉越絵画―日本伝来の白描図像を中心に―」（同書所収）。

(20) 本多道隆「嘉興大蔵経の刊刻事業と紫柏真可―仏語の伝播と自心の闡明―」（『集刊東洋学』九五、二〇〇六年）。

(21) 會谷佳光『西蓮社（旧三縁山増上寺山内寺院報恩蔵）収蔵嘉興版大蔵経目録』（西蓮社、二〇一二年）、會谷佳光『旧三縁山増上寺山内寺院・報恩蔵　西蓮社志稿』（西蓮社、二〇一二年）、王芳「『嘉興蔵』と江戸仏教―鳳潭『扶桑蔵外現存目録』を中心に―」（『インド哲学仏教学研究』二四、二〇一六年）。

(22) 小島章見「徹定上人の著作論考―特に嘉永年代を中心とする壮年期の著作について―」（『佛教文化研究』三六、一九九一年）。

(23) 西蓮社本嘉興蔵所収文献については『西蓮社収蔵嘉興版大蔵経目録』（前掲註21）、および西蓮社（旧増上寺報恩蔵）蔵嘉興版大蔵経目録データベース（https://static.toyobunko-lab.jp/u-renja/ 令和四年一月三日最終閲覧）を参照した。

(24) 5自序の読み下しと解釈は、拙稿「高台寺所蔵「十六羅漢図」の江戸時代後期における模本制作」（前掲註2）。

[図版出典]

図1：『古経堂詩文鈔』別冊（徹定上人遺文集刊行会、一九七七年）
図2：国立国会図書館所蔵マイクロフィルム、国立国会図書館書誌 ID024233589
図3：メトロポリタン美術館オンラインコレクション（令和三年十二月三十一日最終閲覧）
https://www.metmuseum.org/art/collection/search/64012
図4：佛教大学附属図書館デジタルコレクション（令和三年十二月三十一日最終閲覧）
https://bird.bukkyo-u.ac.jp/collections/jurokurakanzusanshu-01/

図５：東京文化財研究所ＯＰＡＣ（令和三年十二月三十一日最終閲覧）
https://opac.tobunken.go.jp/detail?bbid=90000AA933
図６：新日本古典籍総合データベース（令和三年十二月三十一日最終閲覧）
https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/1002651 93

上嶋悟史（じょうしま・さとし）
二〇一六年　神戸大学文学部卒業
二〇一八年　神戸大学人文科学研究科博士課程前期課程修了
二〇一八年―　神戸大学人文科学研究科博士課程後期課程在籍
二〇一八年―二〇一九年　国立台湾大学芸術史研究所博士班（交換生）
二〇一九年　日本学術振興会特別研究員（DC2）
二〇二〇年―　宮内庁三の丸尚蔵館　学芸室研究員

【表】版本『羅漢図讃集』および写本の所収記事一覧

①通し番号	②縁山蔵板	③京都府本	④東文研本	⑤国会写本	⑥佛大写本	⑦早大写本	⑧題／名	⑨作者	⑩羅漢筆者	⑪典拠
1	天1						文久壬戌仲秋新鐫／羅漢圖讃集／縁山蔵板			
2		天1	天1				文久壬戌仲秋新鐫／羅漢圖讃集／總本山蔵板			
3		天2	天2				華頂山知恩院蔵鐫印			
4	天2	天3	天3				大阿羅漢図讃集序 ［尾］…大僧正闡教音題	闡誉教音［1797-1867］：1862		
5	天3	天4	天4				序　［尾］…佛眼山徹定撰／澤徳基書時年七十有三	養鵬徹定／澤徳基［1790-?］：1862		
6				乾1			十六羅漢圖賛幀錄序 ［尾］…縁山大僧正冠譽撰	冠誉慧厳［-1860?］：1851		
7				乾2	○?		［無題自序］［尾］…縁山南谿　杜多徹定謹撰	養鵬徹定：1850		
8	天4	天5	天8	乾3	1		附言七則　［尾］…古経堂主人識 ［K］［尾］「…徹定識」	養鵬徹定：1850		
9	天5	天6	天7	乾7	2		梁成都府東禪院貫休傳	北宋・贊寧［919-1001］	貫休	宋高僧伝 巻30／唐三高僧詩集
10	天6	天7	天5		3		「唐禪月大師画／明紫柏大師贊」 ※版本のみ篆文	澤徳基［1790-?］カ	貫休	
11	天7	天8	天6		4		大阿羅漢圖賛集巻一／縁山南溪 徹定纂輯／十六羅漢圖像考證 ［B］「十六羅漢圖贊集巻一／縁山南溪 徹定纂輯／跋禪月大師画十六應真~~摹本~~圖像考證序」	養鵬徹定：1850		
12	天8	天9	天9		5		紫柏大師贊 ＋称名寺本縮図	明・紫柏真可［1543-1604］	貫休	紫柏老人集 巻8［酉］／紫柏尊者全集 巻18
13	天9	天10	天10	乾11	6		唐貫休畫十八羅漢賛　宋　蘇軾號東坡居／士 ［K］「〔唐貫休画十八羅〕□宋蘇軾贊三通漢讃宋蘇軾號東坡居士」	北宋・蘇軾［1037-1101］	貫休	東坡全集 巻95／東坡禪喜集 巻2
14＋	天10	天11	天11	乾12	7		觀音及十六羅漢賛并引　仝	北宋・蘇軾［1037-1101］	貫休	東坡全集 巻95／東坡禪喜集 巻2
15	天11	天12	天12	乾13	8		禪月大師應夢羅漢歌　唐　歐陽烱	唐・欧陽烱［896-971］	貫休	益州名畫録 巻下
16	天12	天13	天13	乾14	9		青州羅漢堂記　宋　陸游字務觀号／放翁	南宋・陸游［1125-1210］		渭南文集 巻17
17	天13	天14	天14	乾15	10		法雲寺觀音堂記　仝	南宋・陸游［1125-1210］	貫休	渭南文集 巻19
18	天14	天15	天15	乾16	11		郡中迎懐玉山應真請雨得之未霑足　宋　曾幾號茶山	南宋・曾幾［1084-1166］	［貫休］	茶山集 巻4／瀛奎律髓 巻17
19	天15	天16	天16	乾17	12		書陸務觀所蔵阿羅漢像一軸　仝	南宋・曾幾［1084-1166］		茶山集 巻8
20				乾18	13		［K,B］「唐貫休畫十六應真賛　釋真可号紫柏／明人」 ［B］［前］「以下三紙重出」 ※12の讃部分と同一	明・紫柏真可［1543-1604］	貫休	紫柏老人集 巻8［酉］／紫柏尊者全集 巻18
21	天16	天17	天17	乾19	14		唐貫休畫十八羅漢賛　仝	南宋・曾幾［1084-1166］	貫休	紫柏老人集 巻8［酉］／紫柏尊者全集 巻18
22	天17	天18	天18	乾20	15		十八應真像賛二首題貫休真蹟　明　釋智旭號鶴益	明・藕益智旭［1599-1655］	貫休	絶餘編 巻4［酉］
23	天18	天19	天19	乾21	16		銘心藉百詠之一　明　張丑	明・張丑［1577-1643］	貫休	清河書畫舫 巻12下
24＋	天19	天20	天20	乾8	17		唐貫休畫十六羅漢賛　清乾隆皇帝 ［K,B］「唐禪月大師畫　清乾隆皇帝贊」＋拓本縮図	清・高宗［1711-99］	貫休	［拓本］
25	天20	天21	天21	乾4	20		［尾］…御識 ［B］［前］「以下三紙圖後ニ入」	清・高宗［1711-99］	貫休	［拓本］
26	天21	天22	天22	乾5	21		［尾］…臣僧明水紀	清・明水［?-?］	貫休	［拓本］
27	天22	天23	天23	乾6	22		禪月大師自題十六羅漢像記 ［K,B］金文を併記	唐～五代・貫休［832-912］	貫休	［拓本］
28	天23	天24	天24	乾9	18		仝前　仝前 ［K］「〔唐貫休十六羅漢讃〕乾隆皇帝又贊二通清乾隆帝」〔〕十六羅漢讃 ［B］「唐貫休十六羅漢讃　清乾隆帝」	清・高宗［1711-99］	貫休	御製文初集 巻28
29	天24	天25	天25	乾10	19		仝　十八羅漢賛　仝前 ［K,B］「唐貫休画十八羅漢讃　仝前」	清・高宗［1711-99］	貫休	御製文初集 巻29
30	天25	天26	天26	乾22	23		光孝寺貫休畫羅漢歌　清　趙翼字雲崧号／甌北 ［K］「…清趙翼字雲荘号／甌北」	清・趙翼［1727-1814］	貫休	甌北集 巻17
31	天26	天27	天27	乾23	24		光孝寺貫休四羅漢　清　張錦芳號葯房／順德人	清・張錦芳［1747-92］	貫休	嶺南羣雅 初集／逃虚閣詩集 巻2
32	天27	天28	天28	乾24	25		光孝寺觀貫休畫羅漢圖歌　清　朱彝尊字錫鬯／號竹垞	清・朱彝尊［1629-1709］	貫休	曝書亭集 巻16／Christies London 2019
33	天28	天29	天29	乾25	26		貫休咒鉢羅漢歌　清　張錦芳	清・張錦芳［1747-92］	貫休	逃虚閣詩集 巻2
34	天29	天30	天30	乾26	27		聖因寺看貫休十六羅漢畫軸　清　丁敬字敬身號／龍泓	清・丁敬［1695-1765］	貫休	两浙輶軒錄 巻26
35	天30	天31	天31	乾27	28		題阿羅漢圖　清　黄任字莘田	清・黄任［1683-1768］	貫休	?
36	天31	天32	天32	乾28	29		「禪月集補遺曰…」	明・毛晋［1599-1659］	貫休	禪月集補遺／唐三高僧詩集
37	天32	天33	天33	乾29	30		「益州名畫録曰…」	北宋・黄休復［?-?］	貫休	益州名畫録 巻下
38	天33	天34	天34	乾30	31		「妮古録曰…」	明・陳継儒［1558-1639］	貫休	清河書畫舫 巻5下
39	天34	天35	天35	乾31	32		「東坡全集曰…」	北宋・蘇軾［1037-1101］	貫休	東坡全集 巻79
40	天35	天36	天36	乾32	33		「冷齋夜話曰…」	北宋・恵洪［1071-1128］	貫休	冷齋夜話 巻1
41	天36	天37	天37	乾33	34		「淳熙志云…」	南宋・羅願［1136-84］	貫休	新安志 巻3／古今圖書集成博物彙編神異典 巻119
42	天37	天38	天38	乾34	35		寄貫休上人　唐　釋修睦	唐・修睦［?-918］	貫休	全唐詩 巻849／唐僧弘秀集 巻8／吳都法乘 巻21
43	天38	天39	天39	乾35	36		寄題禪月大師影堂　唐　釋齊巳	唐・齊巳［?-?］	貫休	全唐詩 巻845／白蓮集 巻8

44	天39	天40	天40	乾36	37		荊州禪月大師舊房　仝	唐・齊巳[?-?]	貫休	全唐詩 卷844／白蓮集 卷7
45	天40	天41	天41	乾37	38		寄禪月大師　唐　張相公格	唐・張格[?-927]	貫休	全唐詩 卷760／禪月集 卷19
46	天41	天42	天42	乾38	39		仝　唐　集賢周相公	唐・周相公[?-?]	貫休	全唐詩 卷760／禪月集 卷19
47	天42	天43	天43	乾39	40		仝　唐　韋相公莊	唐・韋莊[836?-910]	貫休	全唐詩續拾 卷52／禪月集 卷19
48	天43	天44	天44	乾40	41		仝　唐　王相公楷	唐・王楷[?-?]	貫休	全唐詩 卷760／禪月集 卷19
49	天44	天45	天45	乾41	42		仝　唐　裴説	唐・裴説[?-908]	貫休	全唐詩 卷720／文苑英華 卷224
50				坤1		中1	十六羅漢図賛輯録後編序	養鶴徹定：1850		
51	地1	地1	地1	坤2		中2	十八羅漢頌并序　宋　蘇軾字子瞻 [K,W]［前］「十六羅漢圖賛輯録後編」 [K]「〔十八羅漢頌并序〕○－－－十八阿羅漢頌并序　宋　蘇軾字〔號カ〕／子瞻」	北宋・蘇軾[1037-1101]	張玄	東坡文鈔 卷27／東坡事類 卷14／東坡全集 卷98／東坡禪喜集 卷1／三才圖會 人物九卷／十八羅漢圖讃
52	地2	地2	地3	坤3		中3	跋蘇東坡十八大阿羅頌　明　釋真可	明・紫柏真可 [1543-1604]		紫柏老人集 卷8[酉]／紫柏尊者全集 卷15
53	地3	地3	地4	坤4		中4	蘇長公十八羅漢跋　明　釋性獅	明・独吼性獅[1624-88]		獨吼禪師五雲集 卷4
54	地4	地4	地2	坤5		中5	跋　明　釋性敦	明・高泉性激[1633-95]		?
55＋	地5	地5	地5	坤6		中6	十八阿羅漢偈　明　王世貞字元美 演蘇眉山十八羅漢頌并引 [K]「〔十八阿羅漢偈〕○－－－十八羅漢偈　明　王世貞字〔號カ〕／元美」	明・王世貞[1526-90]		弇州續稿 卷145／三才圖會 人物九卷／十八羅漢圖讃
56	地6	地6	地6	坤7		中7	蘇長公十八羅漢賛跋　明　周履靖	明・周履靖[1549-1640]	李公麟流亜	?
57	地7	地7	地7	坤8		中8	十六羅漢讃十六首　宋　黄魯直字庭堅	北宋・黄庭堅 [1045-1105]		豫章黄先生文集　卷14
58	地8	地8	地8	坤9		中9	十六羅漢讃 [K,W]「…宋　釋師範」	南宋・無準師範 [1177-1249]		無準師範禪師語錄 卷5
59＋	地9	地9	地9	坤10		中10	繡釋迦并十八羅漢讃　宋　釋德洪字覺範 [K]「…宋釋德洪○　［榜注］號覺範」	南宋・覺範德洪 [1071-1128]	羅彦勝之室鄒氏	石門文字禪 卷18[酉]
60	地10	地10	地10	坤11		中11	十六大阿羅漢讃　明　釋真可號紫柏	※元～明・楚石梵琦 [1296-1370]		楚石梵琦禪師語錄 卷14[酉]
61	地11	地11	地11	坤12		中12	右　仝前 [K,W]　題なし	明・紫柏真可 [1543-1604]		紫柏老人集 卷8[酉]／紫柏尊者全集 卷17
62	地12	地12	地12	坤13		中13	十八大阿羅漢讃　明　釋通雲號石奇	明・石奇通雲 [1594-1663]		雪竇石奇禪師語錄 卷14[酉]
63	地13	地13	地13	坤14		中14	十八大阿羅漢賛　明　釋石雨	明・石雨明芳[?-?]		石雨禪師法檀 卷12[酉]
64	地14	地14	地14	坤15		中15	十八大阿羅漢賛　明　釋元賢號永明 [K,W]「十八大阿羅漢賛爲金仙菴題　釋元賢號永／覚明／人」	明・永覚元賢 [1578-1657]		永覚元賢禪師廣錄 卷21[酉]
65	地15	地15	地15	坤16		中16	十六応真讃　明　釋開訓號慧弓	明・慧弓開訓[1634-76]		?
66	地16	地16	地16	坤17		中17	十八羅漢圖像邵仲莅居士請讃　明　釋行舟號介為	明・行舟介為[1611-70]	画工	介為舟禪師語錄 卷6[酉]
67＋	地17	地17	地17	坤18		中18	十八羅漢偈　樵道人未詳字號 [K]「…明樵道人／未詳字號／蓋清人」	樵道人？		?
68	地18	地18	地18	坤19		中19	鳳鳴寺十八応真乃日本国所製密印僧典於／沈氏沉施鳳鳴　元　釋北磵	元・北磵居簡 [1164-1246]	日本製［黙庵］	北磵詩集 卷4
69	地19	地19	地19	坤20		中20	題手軸十六羅漢　仝	元・北磵居簡 [1164-1246]		?
70	地20	地20	地20	坤21		中21	省府鑄降龍金羅漢　元　釋末宗	元・末宗[?-?]		?
71	地21	地21	地21	坤22		中22	拜賓頭盧尊者　元　釋元叟	元・元叟行端 [1255-1341]		元叟行端禪師語錄 卷6
72	地22	地22	地22	坤23		中23	拜諾詎羅尊者　元　釋別峯	元・別峯雲[?-?]		續古尊宿語要 第四集
73	地23	地23	地23	坤24		中24	題羅漢圖　元 [K,W]「…釋行端元人」	元・元叟行端 [1255-1341]		元叟行端禪師語錄 卷8／御定佩文齋詠物詩選 卷233／御定歷代題畫詩類 卷65
74	地24	地24	地24	坤25		中25	題十八羅漢圍碁圖　元　釋明本	元・中峰明本 [1263-1323]		天目中峯和尚廣錄 卷10[酉]
75	地25	地25	地25	坤26		中26	下棋羅漢圖賛二首　明　釋大豁	明・大豁寂光[1619-?]		寂光豁禪師語錄 卷4[酉]
76	地26	地26	地26	坤27		中27	題羅漢掲厲圖　元　釋明本	元・中峰明本 [1263-1323]		天目中峯和尚廣錄 卷10[酉]
77	地27	地27	地27	坤28		中28	羅漢圖　釋海明號破山	明・破山海明 [1597-1666]		破山禪師語錄 第17卷[酉]
78	地28	地28	地28	坤29		中29	降龍羅漢圖 [K,W]「…仝」	明・破山海明 [1597-1666]		破山禪師語錄 第17卷[酉]
79	地29	地29	地29	坤30		中30	羅漢圖　釋性聰號明覺	明・明覚性聰[1611-67]		明覚聰禪師語錄 卷18
80	地30	地30	地30	坤31		中31	羅漢圖　釋法璽號同安	清・法璽正印[?-?]		法璽印禪師語錄 卷9[酉]
81	地31	地31	地31	坤32		中32	仝　仝	清・法璽正印[?-?]		法璽印禪師語錄 卷9[酉]
82	地32	地32	地32	坤33		中33	羅漢圖　明　釋淨斯號百愚	明・百愚淨斯[1610-65]		百愚斯禪師語錄 卷18[酉]
83	地33	地33	地33	坤34		中34	仝　釋慧海號水鑑	明～清・水鑑慧海 [1626-87]		水鑑海和尚六會錄 卷7[酉]
84	地34	地34	地34	坤35		中35	題阿羅漢圖三首　釋行覚號自閒 [K]　名は貼紙上に筆記、下部不明	明・自閒行覚[1610-62]		自閒覚禪師語錄 卷6[酉]
85	地35	地35	地35	坤36		中36	伏虎羅漢賛　釋石雨	明・石雨明芳[?-?]		石雨禪師法檀 卷12[酉]
86	地36	地36	地36	坤37		中37	鹿野法師索題扇頭羅漢　釋行舟號介為	明・行舟介為[1611-70]		介為舟禪師語錄 卷6[酉]
87	地37	地37	地37	坤38		中38	題五十三應真馴伏靈禽異獸總畫軸　釋通容	明～清・費隠通容 [1593-1661]		費隠禪師語錄 卷13[酉]

88	地38	地38	地38	坤39		中39	十八羅漢贊　明　釋心越號東皐	明・心越興儔[1639-95]		?
89	地39	地39	地39	坤40		中40	十六羅漢贊　明　陳王道	明・陳王道[1526-76]		?
90	地40	地40	地40	坤41		中41	題注以虛羅漢卷後　明　袁宏	明・袁宏[1441-?]		袁中郎全集 巻20
91	地41	地41	地41	坤42		中42	讀經羅漢贊為黃竹石題　仝	明・袁宏[1441-?]		袁中郎全集 巻20
92				坤43			十六羅漢讚　宋　釋師範　※57と重出	南宋・無準師範[1177-1249]		無準師範禪師語錄 巻5
93	地42	地42	地42	坤44		中43	第六虭沒羅洲跋陀羅尊者　明　沈懋學	明・沈懋学[1539-82]		?
94	地43	地43	地43	坤45		中44	第七僧伽荼洲迦哩迦尊者　明　文徵明	明・文徵明[1470-1559]		?
95	地44	地44	地44	坤46		中45	第八鉢剌拏洲伐闍羅弗多羅尊者　明　宋濂	明・宋濂[1310-81]		?
96	地45	地45	地45	坤47		中46	第九醉香山中戍博迦尊者　明　汪道昆	明・汪道昆[1525-93]		?
97	地46	地46	地46	坤48		中47	第十畢利颯衢洲羅怙羅尊者　明　袁黃	明・袁黄[1533-1606]		?
98	地47	地47	地47	坤49		中48	第十一三十三天半託迦尊者　明　岳濬	明・岳濬[1704-53]		?
99	地48	地48	地48	坤50		中49	第十二半渡波山冉阝迦犀那尊者　明　唐寅	明・唐寅[1470-1524]		?
100	地49	地49	地49	坤51		中50	第十三廣協山中因竭陀尊者　明　程敏政	明・程敏政[1445-99]		?
101	地50	地50	地50	坤52		中51	第十四可住山中伐那婆斯尊者　明　王錫爵	明・王錫爵[1534-1610]		?
102	地51	地51	地51	坤53		中52	第十五鷲峯山中阿氏多尊者　明　李攀龍	明・李攀龍[1514-70]		?
103	地52	地52	地52				十八應真贊　明　屠隆	明・屠隆[1543-1605]		?
104	地53	地53	地53	坤54		中53	十六應真歌題唐人畫　清乾隆皇帝	清・高宗[1711-99]	唐人	御製詩二集 巻38
105	地54	地54	地54	坤55		中54	題唐岱沈源合作應真圖　仝	清・高宗[1711-99]	唐岱 沈源	御製詩初集 巻13
106	地55	地55	地55	坤56		中55	題丁觀鵬白描十六羅漢卷　仝	清・高宗[1711-99]	丁観鵬	御製詩三集 巻74
107	地56	地56	地56	坤57		中56	丁觀鵬羅漢圖　同前	清・高宗[1711-99]	丁観鵬	御製詩初集 巻39
108	地57	地57	地57	坤58		中57	李龍眠白描羅漢歌為沈方鄴賦　清　汪耀麟	清・汪耀麟[?-?]	李公麟	?
109	地58	地58	地58	坤59		中58	安國寺羅漢像歌　清　周緩字傳忠／號紓渠	清・周緩[?-?]		两浙輶軒錄 巻33
110	地59	地59	地59	坤60		中59	十八羅漢卷子　清　胡濤字滄来／號葑唐	清・胡濤[?-?]		两浙輶軒錄 巻35
111	地60	地60	地60	坤61		中60	觀梅蔚十六羅漢畫册　清　丁敬字敬身／號龍泓	清・丁敬[1695-1765]	梅蔚	两浙輶軒錄 巻26
112	地61	地61		坤74		中72	題十六應真後　明　王世貞	明・王世貞[1526-90]		弇州續稿 巻171
113	人1	人1	人1	坤75		下1	大阿羅漢圖贊集卷三／過海羅漢畫記　明　王遜[K,W]［前］「附録」	明・王遜[?-1417-?]	摹 李公麟	清河書畫舫 巻4上
114	人2	人2	人2	坤76		下2	題過海羅漢圖卷後　明　朱孟德	明・朱孟德[?-1421-?]	李公麟	清河書畫舫 巻4上
115	人3	人3	人3	坤77		下3	過海羅漢圖卷題跋　明　釋日聖	明・日聖[?-?]	呉道子	清河書畫舫 巻4上
116	人4	人4	人4	坤78		下4	過海羅漢應供圖　明　釋來復	明・来復[?-?]		御定歷代題畫詩類 巻65／ 御選明詩 巻49
117	人5	人5	人5	坤79		下5	次韻張仲舉承旨題盧楞伽過海羅漢圖	明・来復[?-?]	盧楞伽	御定歷代題畫詩類 巻65／ 御定佩文齋詠物詩選 巻233
118	人6	人6	人6	坤80		下6	題十八羅漢渡海圖　清　沈靖	清・沈靖[?-?]		湖海詩傳 巻23
119	人7	人7	人7	坤81		下7	題羅漢浮盃圖　元　釋月磵	元・月磵文明[?-1310-?]		月磵和尚語錄 巻下
120	人8	人8	人8	坤82		下8	仝　釋子元元人	元・無学祖元[1226-86]		佛光國師語錄 巻8
121	人9	人9	人9	坤83		下9	仝　董其昌明人	明・董其昌[1555-1636]		容台文集 巻7
122	人10	人10	人10			下10	龍眠居士畫十八應真相贊　明　宋濂	明・宋濂[1310-81]	李公麟	宋文憲公護法錄 巻9[酉]
123	人11	人11	人11			下11	十八大阿羅漢贊	明・宋濂[1310-81]	雪峰慧空カ	宋文憲公護法錄 巻9[酉]／ 鑾坡集 巻17
124	人12	人12	人12	坤84		下12	十六羅漢渡海圖贊　釋大壑號方融	明～清・方融大壑[1602-?]		方融壑禪師語錄 巻3[酉]
125	人13	人13	人13	坤85		下13	仝　釋性聰號明覺	明・慈璞性聰[1610-66]		明覺聰禪師語錄 巻18
126	人14	人14	人14	坤86		下14	仝　釋海明號破山	明・破山海明[1597-1666]		破山禪師語錄 巻17[酉]
127	人15	人15	人15	坤87		下15	仝　釋行澤號雲外	清・雲外行澤[1607-54]		神鼎雲外澤禪師語錄 巻13[酉]
128	人16	人16	人16	坤88		下16	仝　釋顓愚號紫竹	明～清・顓愚観衡[1579-1646]		紫竹林顓愚衡和尚語錄 巻11[酉]
129	人17	人17	人17	坤89		下17	仝　仝	明～清・顓愚観衡[1579-1646]		紫竹林顓愚衡和尚語錄 巻11[酉]
130	人18	人18	人18	坤90		下18	仝　仝	明～清・顓愚観衡[1579-1646]		紫竹林顓愚衡和尚語錄 巻11[酉]
131	人19	人19	人19	坤91		下19	題十六尊者揭厲圖　元　釋明本	元・中峰明本[1263-1323]		天目中峯和尚廣錄 巻29[酉]
132	人20	人20	人20	坤92		下20	仝　仝　※76と重出	元・中峰明本[1263-1323]		天目中峯和尚廣錄 巻10[酉]
133	人21	人21	人21	坤93		下21	仝航海圖　清　王祚昌	清・王祚昌[1685-?]		?
134	人22	人22	人22	坤94		下22	任大卿出龍眠渡水羅漢圖　宋　釋北磵	元・北磵居簡[1164-1246]	李公麟	北磵詩集 巻6
135	人23	人23	人23	坤95		下23	題渡水羅漢畫　宋　黄魯直	北宋・黄庭堅[1045-1105]	王維	山谷集 巻27／山谷題跋 巻3／ 御定佩文齋書畫譜 巻66
136	人24	人24	人24	坤96		下24	渡海阿羅漢像　明　王世貞	明・王世貞[1526-90]	李公麟	弇州續稿 巻171
137	人25	人25	人25	坤97		下25	五百羅漢圖記　宋　秦觀	北宋・秦観[1049-1100]	法能	淮海集 巻38／ 文章辨體彙選 巻584
138	人26	人26	人26	坤98		下26	李公麟五百應真圖評　※冒頭に「畫系曰」とあり	明・張丑[1577-1643]	李公麟	清河書畫舫 巻8上
139	人27	人27	人27	坤99		下27	仝　明　張丑	明・張丑[1577-1643]	李公麟	清河書畫舫 巻8上
140	人28	人28	人28	坤100		下28	廣州資福寺羅漢閣碑記　宋　蘇軾	北宋・蘇軾[1037-1101]		東坡全集 巻38／ 東坡禪喜集 巻5
141	人29	人29	人29	坤101		下29	薦誠禪院五百羅漢記　仝	北宋・蘇軾[1037-1101]		東坡全集 巻37／ 東坡禪喜集 巻5
142	人30	人30	人30	坤102		下30	李龍眠居士白描五百羅漢像　明　釋行舟號介為	※明～清・顓愚観衡[1579-1646]	李公麟	紫竹林顓愚衡和尚語錄 巻11[酉]
143	人31	人31	人31	坤103		下31	栖霞寺五百阿羅漢畫記　明　董其昌	明・董其昌[1555-1636]	李公麟	金陵梵刹志 巻4／ 容台文集 巻4

144	人32	人32	人32	坤104		下32	登天台山禮五百應真　宋　釋果 [K]「…釋呆宋人」	北宋・釋呆[?-?]		?
145	人33	人33	人33	坤105		下33	送僧遊台州天寧寺補陀雁蕩　元　釋古林	元・古林清茂 [1262-1329]		古林清茂禪師拾遺偈頌 巻下
146	人34	人34	人34	坤106		下34	仝　元　釋平石	元・平石如砥 [1268-1357]		?
147	人35	人35	人35	坤107		下35	登天台禮五百應真　宋　王十朋	南宋・王十朋[1112-71]		梅溪王先生文集 後集巻2／解惑編 巻下之上／法喜志 巻4／佛法金湯編 巻14／樂邦遺稿 巻下
148	人36	人36	人36				五百羅漢像賛　清　劉權之	清・劉権之[1739-1818]		石橋五百尊羅漢像
149	人37	人37	人37				清胡觀瀾	清・胡観瀾[?-1798-?]		石橋五百尊羅漢像
150	人38	人38	人38				杭州慈浄寺五百羅漢考	養鶴徹定：1857		
151＋	人39	人39	人39	坤108		下36	十六羅漢應現記以下本／邦部　釋希元號道元	道元[1200-53]	李公麟	訂補建撕記圖會 坤巻
152	人40	人40	人40	坤109		下37	豐州羅漢寺舍利塔銘　釋中津號絶海	絶海中津[1336-405]		蕉堅藁
153	人41	人41	人41	坤110		下38	「臥雲日件録曰…」	瑞渓周鳳[1391-1473]		臥雲日件録 49冊
154	人42	人42	人42	坤111		下39	寄羅漢靖孚和尚　釋道費號無隠	無隠道費[1688-1756]		無隠禅師無孔笛 巻2
155	人43	人43	人43	坤112		下40	詣羅漢寺二首　仝	無隠道費[1688-1756]		無隠禅師無孔笛 巻4
156	人44	人44	人44	坤113		下41	景定壬戌秋躋天台石橋供茶湯於五百羅漢感靈洞開梵鐘作偈二篇　釋静照	無象静照[1234-1306]		?
157	人45	人45	人45			下42	十六羅漢圖様并序　釋元政號草山／妙子	日政[1623-68]		?
158	人46	人46	人46	坤114		下43	仝　仝	日政[1623-68]	明兆	艸山集 呉之巻
159	人47	人47	人47	坤115		下44	羅漢神通　仝 [K]〔後〕〔後ニツヾク〕	日政[1623-68]		艸山集 盈之巻
160＋	人48	人48	人48	坤116		下45	福田宜耕錄記 [K]〔後〕〔後ニツヾク〕	面山瑞方[1683-1769]		十六大阿羅漢福田宜耕記
161	人49	人49	人49	坤117		下46	慈雲山龍興寺五百羅漢圖記　釋顕常號大典	大典顕常[1719-1801]	加藤信清	北禅遺草 巻5
162	人50	人50	人50	坤118		下47	題畫壁羅漢　釋周信號義堂	義堂周信[1325-88]		空華集 巻5
163	人51	人51	人51	坤119		下48	禮佛羅漢　釋中津號絶海	絶海中津[1336-405]		絶海和尚語録 巻下
164	人52	人52	人52	坤120		下49	羅漢赴龍王齋　仝	絶海中津[1336-405]		絶海和尚語録 巻上
165				坤121		下50	[K,W] 補納羅漢賛　釋慧薫號風外	風外慧薫[1568-1650]		?
166				坤122		下51	[K,W] 十六羅漢賛　釋面山 [W]「…号瑞方」※鉛筆で書き込み？	面山瑞方[1683-1769]		?
167				坤123		下52	[K,W] 盲羅漢穿針圖　釋實巖號千丈	千丈実巌[1722-1802]		幽谷餘韻 巻7
168				坤124		下53	[K,W] 十六羅漢圖二首　仝前	千丈実巌[1722-1802]		?
169				坤125		下54	[K,W] 仝	千丈実巌[1722-1802]		?
170				坤126		下55	[K,W] 應真十六尊者於大藏經未撿的據也如其／名號諸説不同難以別指矣且其梵相道／容及所持庶物之類固不可一準焉今乃應／需按圖聊加畧贊云釋在禅號薫誉	薫誉在禅[1739-1820]		?
171				坤127		下56	[K,W] 蓋佛菩薩画様始起漢明帝可以知也然而未／嘗聞有性索西竺寫羅漢十六聖真像且標／出其名字者焉若其名位古人雖指寶雲／經彼無文獨依慶友尊者説知之而已若／其聖容固無縁可參考是以支那本邦古／今雖工畫家各摸象其奇相雅貌加意匠／而構造焉後人徒倣之耳若夫的定名位豈／敢今乃應需從圖述畧贊爾　仝前	薫誉在禅[1739-1820]	月窓	妙定院所蔵　十六羅漢図巻
172				坤128		下57	[K,W] 緣山高閣上所安羅漢十又六軀聖像傳為／支那舶來之物也按宋太宗雍熙元年勅／造羅漢五百十六身奉安天台壽昌寺今／雖未詳其傳蓋是一歟其聖容神威雅徒使／人敬服瞻禮甲子之夏有故作賛　仝前 [K]〔尾〕〔本師左面為北従北移／南列位次第應知〕	薫誉在禅[1739-1820]	木村徳悦彩色	?
173				坤129		下58	[K,W] 羅漢制龍賛　仝前	薫誉在禅[1739-1820]		?
174				坤130		下59	[K,W] 羅漢論虎賛　仝前	薫誉在禅[1739-1820]		?
175				坤131		下60	[K,W] 題十六羅漢圖　釋玄瑞號月僑	月僑[1741-1809]		緣山詩叢 坤巻
176						下61	[W] 十六羅漢賛　釋誠拙	誠拙周樗[1745-1820]		
177	人53	人53	人53	坤62		中61	張僧繇畫僧記　唐　劉長卿	唐・劉長卿[709?-85?]	張僧繇	劉隨州集
178	人54	人54	人54	坤63		中62	「太平廣記曰…」	北宋・太宗[976-97] 勅		太平廣記 巻430
179	人55	人55	人55	坤64		中63	「燕南紀譚曰…」	天嶺性空[1669-1740]		燕南記譚？
180	人56	人56	人56	坤65		中64	「纂異記曰…」	唐・李玫[?-?]		樂邦遺稿 巻下
181	人57	人57	人57	坤66		中65	「永嘉王十朋…」 [K]〔後〕〔後ニツヾク〕 ※一部が146と重出	南宋・王十朋[1112-71]		樂邦遺稿 巻下
182	人58	人58	人58	坤67		中66	「沈存中筆談曰…」	北宋・沈括[1031-95]		夢渓筆談 巻24
183	人59	人59	人59	坤68		中67	「東車筆録曰…」	北宋・魏泰[?-?]／北宋・葉夢得[1077-1148]？		東軒筆録 巻4 ＋石林詩話？
184	人60	人60	人60	坤69		中68	「韻語陽秋曰…」	南宋・葛立方[?-1165]		釋氏稽古略 巻4
185	人61	人61	人61	坤70		中69	「禪喜集曰…」	北宋・蘇軾[1037-1101]		禅喜集 巻5
186	人62	人62	人62	坤71		中70	「石門文字禪曰…」	南宋・覺範德洪 [1071-1128]		石門文字禪 巻18[酉]
187	人63	人63	人63	坤72		中71	「樂邦遺稿曰…」	南宋・石芝宗曉 [1151-1214]		楽邦遺稿 巻下
188	人64	人64	人64	坤73		中72	「肥後面山著十六応験伝二巻其事跡詳悉…」	養鶴徹定		羅漢応験伝
189＋	人65	人65	人65	乾42	43		十六大阿羅漢名号并座位考／慶友尊者説出法住記	養鶴徹定		
190＋	人66	人66	人66	乾43	44		乾隆皇帝所定座位出楽善堂集	養鶴徹定		御製文初集 巻28,29
191＋	人67	人67	人67	乾44			聖因寺蔵幅題名　[尾]「…座位考大尾」 [K]〔尾〕「…且存疑以待来哲」	養鶴徹定：1850	貫休	
192				坤132		下62	五百羅漢図記輯録跋　[尾]…松影道人　徹定識	養鶴徹定：1850		

193				乾45			跋尾　［尾］…松影道人識	養鶴徹定：1850		
194	人68	人68	人68				跋　［尾］…縁山教頭密順識／南渓崇禅書	密順［?-?］／相馬崇禅［1829-88］：1864		
195	人69	人69	人69				「羅漢図讃集三巻捐貨助刻施主…」	養鶴徹定：1863		
196		人70	人70				浄土宗／總本山 書籍調進所	澤田吉右衛門［書肆名］		
197	人70						「縁山蔵板」			

【凡例】

・①通し番号において、記事に徹定自身の識語が付される場合には＋を加えた。

・⑧題／名においては、基本的に版本における記述を記した。前の記事を受ける「同」「仝」「仝前」についても写本と版本で表記が異なることがあるが、いちいち注記しなかった。ただし、写本との間に看過できない相違がある場合や、写本のみに存在する記事については［K］国会写本、［B］佛大写本、［W］早大写本として表記した。写本では「釋真可号紫柏／明人」のように人名の後に活動朝代を記すことが多いが、版本ではほとんど「明　釋真可」のように朝代を先に置く形に統一されている。これについては写本と版本との異同をいちいち注記しなかった。

・⑧題／名において、記事の前後に傍注がある場合は［前］［後］に続けてその内容を記した。

・⑧題／名において、とくに記事の末尾に付される署名などを示す場合は［尾］に続けてその内容を記した。

・⑧題／名において、国会写本に貼紙による修正のある箇所は修正後の文字を〔〕内に記し、その下に文字があって判読できた場合は直後に記して下線を引いた。

・⑨作者において、嘉永３年［1850］以降のもので、記事に年紀が明記されている場合は西暦を記した。

・⑪典拠において、『欽定四庫全書』所収の文献には［四］を、酉蓮社本嘉興蔵に含まれる文献には［酉］を伏した。

・新旧字体の別は基本的に記載のとおりとした。

・返り点や送り仮名は省略した。